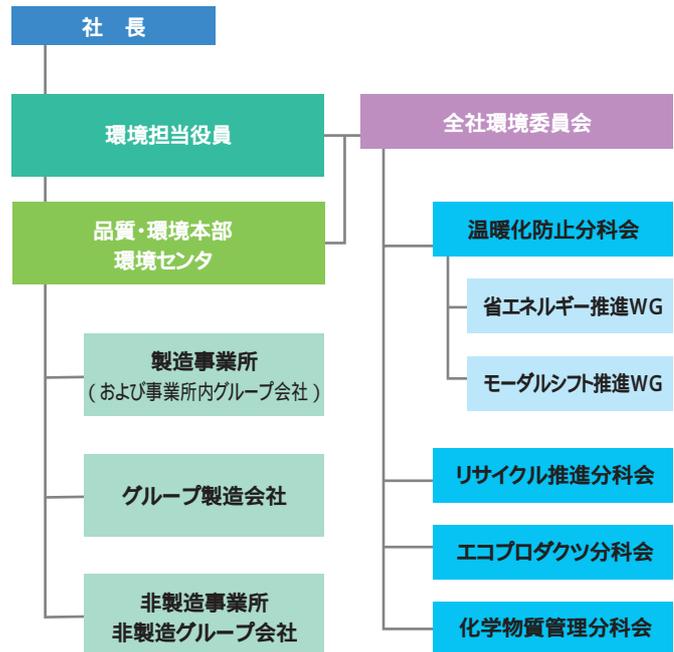




環境マネジメント体制

グループ全体の環境マネジメントを推進する組織として全社環境委員会および分科会を設置し、グループ環境行動計画の策定、達成度の確認・評価・改善の検討、および共通課題の討議などを行っています。

各事業所やグループ会社は、グループ環境行動計画にもとづきおのおのの単位でISO14001環境マネジメントシステムにより環境改善活動を推進しています。また、事業所・グループ会社へ方針や情報を伝達することや実績のとりまとめを実行する組織として品質・環境本部に環境センタを設置し全体を管理する体制をとっています。



ISO14001認証取得状況

日立電線およびサイト内グループ会社

認証取得サイト	サイト内グループ会社	認証年月
電線工場	日立ケーブルプレジジョン(株)日立工場	1997.3
日高工場 豊浦工場 高砂工場 三沢工場 みなと工場を含みます	日立電線メクテック(株)	1997.3
	日立電線ロジテック(株)	
	ハイデックシステムズ(株)	
	日立電線ファインテック(株)	
	日立マグネットワイヤ(株)	
	日立製線(株)	
	(株)ジェイ・パワーシステムズ日高事業所	
(株)ジェイ・パワーシステムズ豊浦事業所		
土浦工場	(株)アドバンス・ケーブル・システムズ	1999.3

国内グループ会社

グループ会社	認証年月
東日京三電線(株)	2000.1
日立ケーブルプレジジョン(株) 本社・工場	2000.11
日本製線(株) 前橋工場	2002.2
日立電線商事(株)	2002.3
日立アロイ(株) 騎西工場	2002.11
東北ゴム(株)	2003.3
藤長電気(株)	2006.3

海外グループ会社

グループ会社	認証年月	所在地
Hitachi Cable Asia Pacific Pte. Ltd.	1998.9	シンガポール
Hitachi Cable Philippines, Inc.	2001.12	フィリピン
Euro Wire & Cable Services, Ltd.	2002.2	ハンガリー
Hitachi Cable Indiana, Inc.	2002.2	アメリカ
Hitachi Cable(Johor)Sdn. Bhd.	2002.5	マレーシア
Thai Wire & Cable Services Co., Ltd.	2002.7	タイ
Giga Epitaxy Technology Corp.	2003.2	台湾
中天日立光纜有限公司	2003.12	中国
華南電線加工有限公司	2004.2	香港
PHCP, Inc.	2004.11	フィリピン
日立電線精技(蘇州)有限公司	2005.3	中国
上海日立電線有限公司	2005.5	中国
Hitachi Cable PS Techno(Malaysia)Sdn. Bhd.	2005.6	マレーシア

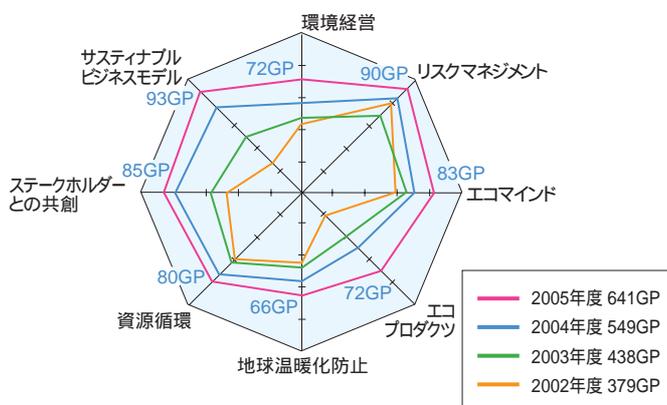
環境管理評価 GREEN21 ver.2

日立グループ全体で2002年から取り組んでいる点数評価システム「GREEN21 ver.2」は、2005年が活動の最終年度でした。活動は8カテゴリーの53項目についてレベルアップをはかり評価点を向上することでしたが、2002年における日立電線グループでの評価でエコプロダクツとサステナブルビジネスモデルの2つのカテゴリーが弱いことが分かっていたことから、この2カテゴリーの項目を重点的に、他のカテゴリーについても各項目の改善活動を推進し全体のレベルアップをはかる活動を推進してきました。

2005年度の結果、エコプロダクツについては環境適合製品の拡大や有害物質削減の推進、またサステナブルビジネスモデルについてはリサイクルビジネスの展開などの向上項目が達成でき、他のカテゴリーの向上と合わせサイトの合計評価は641GPとなり目標を達成することができました。

一方、2006年からは引き続きGREEN21のver.3が始まりますが、評価項目が変わりレベルが上がることや海外会社製造サイトも評価対象に加えることなどの変更があり、より高いレベルをめざして活動を推進する計画です。

グリーンポイント評価実績



評価カテゴリーと主な評価項目

カテゴリー	主な評価項目
エコマネジメント - 環境経営	環境マネジメント、行動計画、環境会計
エコマネジメント - リスクマネジメント	法令・自主基準遵守、環境施設保全
エコデザイン	従業員教育、家族への啓発
エコプロダクツ	製品アセスメント、グリーン購入、物流
エコファクトリー - 地球温暖化防止	省エネルギー投資と改善、CO ₂ 排出削減
エコファクトリー - 資源循環	廃棄物削減、化学物質管理
ステークホルダーとの共創	情報開示、コミュニケーション、コミュニティ活動
サステナブルビジネスモデル	体制、製品リサイクル、環境修復活動

目標と実績

年度	2002	2003	2004	2005
目標 (GP)	-	426	533	640
実績 (GP)	379	438	549	641

環境監査

環境監査として、ISO14001マネジメントシステム単位での内部監査と、主として遵法状況をまとめた環境管理実績報告を監査する2種の監査を実施しました。内部監査の指摘項目は教育に関する事項や実施計画書記載内容の不備に関する事項が主でしたが、なかでも退職・異動にともなう引継ぎの徹底や派遣従業員への教育など現在の課題を反映した指摘が多くあったことが特徴です。

内部監査および環境管理実績報告の指摘事項はいずれも改善が完了したことを確認しました。

区分	内容	
ISO14001に基づく内部監査の結果	対象	205部署
	要改善項目	45件
環境管理実績報告監査の結果	対象	12サイト
	自主管理基準超過	5件
	法規制超過	1件

環境教育

環境保全に対する意識の高揚をめざして全社教育と事業所教育とを実施しています。全社教育では比較的若い年齢層と現場の管理を担う中堅層とを主な対象とした階層別教育と、全社員を対象としたインターネット教育とを実施し、また事業所においてはISOマネジメントシステムに基づく各種教育を実施しました。社会へ提示される環境に関する新しい課題を盛り込みながら、基本的な事項は繰り返し伝えるということの方針を実施しています。

区分	教育名称	回数
全社教育	階層別教育	
	新入社員教育	1回/年
	企画職員教育	2回/年
	管理監督者教育	1回/年
事業所教育	海外会社責任者研修	1回/年
	一般教育	インターネット教育 (eラーニング) 各人とも1回/年
	レベルアップ教育	
	特定業務要員教育	1回/年
	内部監査員教育	1回/年
	内部監査員教育 (外部研修)	2回/年
	一般教育	
一般教育・環境方針等の説明会	随時	
従業員・家族向け広報紙	10回/年	
環境講演会	随時	



社内講師による環境教育(日高工場)



緊急事態への対応

環境汚染の事故を防止するために、各工場では緊急事態発生を想定して施設・工程毎に定期的に訓練を実施しています。とりわけ新しい種類の薬液を取り扱うことになった施設・工程では、取扱いの作業手順を徹底し異常事態が絶対に発生しないよう十分な訓練を実施しています。さらに、万一の事態を想定した緊急時対応の訓練を実施、訓練結果を評価し改善を行うことなどにより事故発生を未然に防ぐ訓練を実施しています。また、クリーンルーム職場が増えていることを踏まえ、避難経路の確認や実際の避難誘導訓練を実施、汚染を防止しながら安全も確保する訓練を繰り返し実施しています。



避難訓練(高砂工場)

PCB使用電気機器保管状況

PCB使用機器については、各事業所で厳重な管理・保管を行っています。保管機器のうち、処理計画の対象機種として確定した機器は05年度にもれなく処理委託の登録をしました。今後は、安全かつ効率的に処理が進むようスケジュールや搬送方法の検討を重点に進める計画です。一方、今回対象とならなかった小型機器等については引き続き厳重な保管を継続します。

工場	トランス	コンデンサ	その他(蛍光灯の安定器など)
電線工場	0	15	安定器 391 廃油54リットル
日高工場	5	43	安定器 1903 蛍光灯コンデンサ1缶(16kg) ウエス 2缶(18リットルサイズ)
豊浦工場	3	64	安定器 659 ウエス等6パック
土浦工場	9	360	安定器 573 廃油96kg
日立電線メクテック機器工場	0	0	安定器 182
日立アロイ騎西工場	0	135	安定器 24
東日京三石岡事業所	0	6	0
東北ゴム本社工場	0	9	0

注 1) 微量PCB混入機器も含めた員数です。
2 表の他に使用中の機器がトランス1台(微量混入)、コンデンサ22台あります。

環境に関する規制の遵守・クレーム状況

2005年度はグループ全体において指導が1件とクレームが1件ありました。このうち、指導は高砂工場からの公共下水道排水中のノルマルヘキサン抽出物測定値が5.9mg/Lであったことから、下水道組合による改善の指導を受けたものです。特定の原因を究明することはできませんでしたが、その後排水を連続して測定した結果ではいずれも規制値以内であることを確認しました。引き続き今後も監視を行い異常の無いことを確認します。クレームは、豊浦工場近隣の住民の方からの騒音に関する苦情であり、原因は加熱炉排風機のケーシングから発生する振動音でした。対策として、振動を抑える構造の新しいケーシングに交換し騒音低減をはかりました。

指導/クレーム件数

区分	2003	2004	2005
罰金・科料	0	0	0
指導	2	1	1
クレーム	2	4	1

表彰・認定

茨城県は3R意識の高揚と廃棄物削減促進を目的として、廃棄物の再資源化に取り組んでいる事業所を認定するリサイクル優良事業所認定制度を実施しています。2006年2月に日立電線日高工場は、「先駆的再資源化技術・装置・システム開発事業」部門での認定を受けました。従来から日高工場では、日立電線メクテック(株)および國長金属(株)とタイアップし、ビル解体などで発生した廃電線を回収して銅や被覆材を再生利用するリサイクルシステムを運用していますが、今回特に全国的な回収規模であることや高い分別・再資源化技術を用いていることが評価され認定を受けることができたものです。本リサイクルシステムはお客様のご協力を得て着実に拡大しており、認定を機に一層の充実をはかり循環型社会形成に貢献していきます。



リサイクル優良事業所認定の盾